

ワークショップ「北区の未来予想図」報告書

1 はじめに

北区では、人口減少に対応する持続可能なまちづくりを進めていくためには、北区に“住みたい、住み続けたい”と思える魅力あるまちづくりが必要だと考え、区長マニフェストにも掲げ、重点的に取り組んでいます。

今回、各地域から子育て世代の方々にお集まりいただき、20年後の北区の未来について意見を交換し、今の子供たちが大人になった時に、住みよいまちをつくりたい、子供たちがこの北区に残りたい、また、戻ってきたいと思えるまちにしたい、そんな子供たちが幸せに暮らしてほしい親世代、子育て世代が、その思いをデザイン（構想）にして提案してくれました。

2 ワークショップメンバー

北区内8コミュニティ協議会から選出した子育て世代 16名（男性8名、女性8名）

3 開催状況

- | | | |
|-----|-----|--|
| 第1回 | 日時 | 平成28年9月28日（水）午後7時～9時半 |
| | 会場 | 早通コミュニティセンター（いするぎ荘） |
| | 議題 | ①北区はこうなればよくなる ②北区の強みと弱み |
| | その他 | 区長提案「20年後の新潟市の状況と取り巻く環境」、自己紹介 |
| 第2回 | 日時 | 平成28年10月26日（水）午後7時～9時 |
| | 会場 | 葛塚コミュニティセンター |
| | 議題 | ①未来を地図にデザインする ②課題の多かった公共交通、子育て、働く場・観光をテーマに3グループで討議 |
| 第3回 | 日時 | 平成28年12月7日（水）午後7時～9時 |
| | 会場 | 葛塚コミュニティセンター |
| | 議題 | 報告案、未来予想図のデザイン案の検討 |
| 第4回 | 日時 | 平成29年1月25日（水）午後7時～9時 |
| | 会場 | 早通コミュニティセンター（いするぎ荘） |
| | 議題 | 報告案の検討、北区役所新庁舎整備に向けた提案 |

4 提案内容

ワークショップのメンバーは、身近で生活が完結できる便利な社会をつくることを大きな目標に、楽しく子育てできるまち、近くに働く場があるまち、車がなくても冬でも動きやすい公共交通のあるまちを大きなテーマに議論を重ね、20年後の北区の未来予想図をデザインしました。

(1) 住みやすいまち

① やりたい仕事がある

北区には東港をはじめ、工業団地が多数あるが、女性が働きやすい事務系の仕事は少ない。住居の近くに、女性が希望する仕事があり、働きながら子育てできる環境が必要である。

東港を中心とした工業団地の開発を進めるほか、地域バランスの取れた商業地、観光地の開発により、雇用促進を図ることで、事務系の仕事も増やしていく。また、耕作放棄地の利用促進を図るうえで、新たな農産物の作付けや就農希望者への支援を行うなど、働きたいと思える仕事を創出する。

<例えば…>

- ・東港に工業団地や豊栄駅北口にビジネスゾーンをつくり企業を誘致する
(東港ラボシティ・ビジネスシティ)
- ・独自ブランド米の生産や農業法人化を促進し、就農希望者や後継者が農業で生計を立てられる環境をつくる
- ・職業安定所など、求人情報発信拠点を豊栄駅近くにつくり仕事を探しやすくする

② 住宅地に活気がある

団塊の世代が多い昭和40年、50年代に造成された住宅地では、高齢化と後継者不足で空き家が急速に増える一方、子育て世代が少なくなっている。

既存の住宅地に学生や子育て世代が居住することで、高齢者世代との助け合いや地域に活気を生み出す。新潟医療福祉大学周辺に学園都市を形成するなど、地域の実状に配慮した宅地開発を進めるとともに、空き家活用による移住促進を図る。世代間のバランスを調整し持続可能な都市を形成する。

<例えば…>

- ・既存住宅地の空き家や空きアパートを子育て世代や学生が活用する
- ・新潟医療福祉大学を核に住宅や研究機関、企業が集まる学園都市をつくる
(ユニバーシティ)

③ 賑わう場所がある

集客施設（競馬場や福島潟など）はあるが、観光や活性化に活用されていない。

近くにショッピング街や飲食街、観光地があってもいい。広い公園、屋内の遊び場を整備し、周辺から子育て世代を呼び込む。観光にもメリットがある。

<例えば…>

- ・葛塚に行政機関を集めミニ霞が関をつくる（オフィスシティ葛塚）
- ・競馬場近くに飲食街・レストラン街をつくる（グルメ横丁）
- ・安心安全な海辺の森にするためにレジャー施設（釣堀、マリンレジャー、ドッグランなど）を充実させる（総合リゾートパーク）
- ・岡方や長浦の中央環状線沿いに、農業体験施設、農家レストランなど、農業に特化したエリアとして集客施設をつくる（ファーマーズグランド）
- ・田んぼのまん中に大規模店をつくる
（岡方・長浦、笹山、豊栄駅北口等にスーパーグランドショッピングモール）
- ・遊び場がある大きな公園をつくる
- ・大規模遊園地や全天候型ドームをつくる
- ・福島潟近くに入浴施設（温泉）や宿泊施設をつくる（レジャーパーク）
- ・商店街を元気にする

④ 地域の魅力がわき出る

自然環境や食べ物、周辺観光地から近いという立地条件が良い場所なのに、あまり知られていない。もっとPRして、もっと魅力を磨く必要がある。

福島潟・松浜のひょうたん池などの自然環境を周知する冊子やイベントを行う。野菜などの農作物を提供する場所とメニューを増やす。

<例えば…>

- ・農家レストラン（街）をいっぱいつくる
- ・食物工場、企業の農業経営を促進する
- ・農業大学に加えて農業高校をつくる
- ・農業体験の場をつくる
- ・農産物のブランド化を図る
- ・都会の人に住んでもらえる情報を発信する
- ・北区の自然環境をPRする冊子を配布する
- ・情報発信を目的にイベントを実施する

(2) 子育てしやすいまち

① 子育て世代の居場所がある

子供と遊ぶ場所、冬でも行ける遊び場、親の情報交換できる場所が少ない。北区には小さな公園があるが、おもいきり遊べる遊具が少ない。近隣には一日過ごせる大規模公園があって、子供と一緒に楽しめる。

雨・雪の時でも過ごせる屋内型の居場所が必要である。地域の核となるコミセンに子育てスペースがあるといい。放課後から面倒を見てもらう安全な場所がほしいので、学校内や公共施設に学童保育があると安心。

天候を気にせずに、いつでも集まれる、遊べる、安全な環境で放課後過ごせる場所として、既存施設を活用する。

<例えば…>

- ・コミセンに子育てスペースをつくる（元気でネッシ）
- ・学校の複合化や学校の地域開放を進める
- ・公共施設に学童保育をつくる
- ・夏休みの子どもの居場所をつくる（子育てパークなじらね）

② 家の近くですべてがそろろう

居住地に近いところに、仕事場、子育て相談所、遊び場、保育園があると、子育ての時間が取れて、便利。地域間格差の是正も必要。地域エリアごとに施設を整備するか、施設を利用しやすいように公共交通を充実させる。

<例えば…>

- ・北区にない病児保育や産科をつくる
- ・公共的な施設に公共交通で行けるようにする
- ・いろいろな情報を積極的に教えてくれる情報発信拠点をつくる

③ 地域で子どもを育てる

ご近所の知り合いが少ない。交流もない。近所の高齢者が子供を見守り、高齢者と子供と一緒に集まる場所づくりが必要。結果、高齢者の健康寿命の増進にもつなげる。

ご近所同士の交流する機会を増やす。信頼関係をつくり、近所で支えあう仕組みをつくる。コミ協による子供向け事業の拡充や住民同士の交流促進などを行う。

<例えば…>

- ・地域の近所付き合い、世代間交流を活発にする活動の場をつくる
- ・学校とコミュニティセンターの複合化を行う
- ・地域で子育てする仕組みをつくる（寺子屋など）
- ・コミュニティ協議会での子供向け事業を拡充する

(3) 動きやすいまち

① 公共交通で地域をつなぐ

通学時間に駅までの公共交通がないので、冬の送り迎えが家族の負担になっている。生活における移動に地域格差があり、駅まで行けないといろいろな場所にたどり着かない。人口減少に伴う便民施設の減少対策としても、各地域と駅や新区役所、生活支援施設（スーパー、病院、金融機関等）をネットワークする公共交通が必要。

高齢者や障がいのある人、子どもといった交通弱者と呼ばれる人たちも自由に移動でき、利便性が上がる循環バスを走らせる。まずは、既存の区バス、住民バス、デマンド交通を活用し、地域と各施設をつなぐネットワークをつくる。

<例えば…>

- ・岡方や長浦に路線バスを走らせる（デマンドバス「どんバス」）
- ・中央環状線沿いに、レジャー施設や総合スポーツ施設、大規模店舗などの集客施設を置き、駅を結ぶ循環型の公共交通をつくる
- ・鉄道の南北でそれぞれ循環線をつくる
- ・駅を中心に南北（縦）の公共交通を充実させ、東西（横）のバスや鉄道との接続を良くする
- ・海辺の森（観光地）と大学、豊栄駅を結ぶルートは多くの利用が見込まれるのでモノレール的な新交通システムを導入する（ござれやモノレール HANABI）
- ・新崎駅、黒山駅を充実させ、利用者を増やす

② 安全に通行できる道路をつくる

歩行者や自転車にとって安全な道路が少ない。橋からのアクセスが悪い。踏切や信号が交通の支障になっている。朝夕の交通渋滞も生活に支障がある。施設の集約は必要だが、施設へのアクセスも大事である。

歩行者や自転車の専用道路、基軸となる道路の整備を計画的に進めてほしい。地域間を結ぶ基幹道路や、高齢者や障がいのある人、子どもにもやさしい歩道を整備する。恵まれた自然環境と広大な土地がある北区では自転車道を整備することは、移動や観光誘致に有益である。

<例えば…>

- ・南北の道路を整備する
- ・安全な自転車道路を整備する
- ・阿賀野川に新しい橋をつくる
- ・高速道路を無料化する
- ・ござれや阿賀橋と東港間の道路整備を行う